

支所の廃止撤回を強く求めて市と対峙



6月市議会の焦点のひとつは、大楽毛、春採、桜ヶ岡の支所などの存廃問題。議員が本会議で質問できる一般質問は最大30分。村上かずしげ議員は、その時間全部を使って、支所に関する住民説明会、支所廃止の影響、支所の機能について市と厳しく論戦しました。

住民説明会での意見、支所廃止容認は二人だけ!!

村上議員の質問に答え、「支所の在り方に関する住民説明会での発言は全体で117本。このうち支所廃止に賛成2本、反対112本、その他が3本だった」と答弁。参加者の圧倒的な意見が支所の存続を願っていることがハッキリしました。

村上議員は、関連質問で、「市

つまり、不便にさせないと
言いつつ、現時点で市民に示
せるものは何もないというこ
とです。

市民の声に背をむける。

支所の機能充実は考えない。

「反対という方は、証明書

の発行ができなくなるから反
対というだけではない。地域
の行政の拠点として、支所に
多面的な機能を発揮してほし
い。支所があれば安心。しか
し、支所をなくしたら、そう
した可能性も奪われる。そん
な思いがあふれていた」と、
住民説明会に共通していた市
民の思いを村上議員は代弁。

そのうえで、「旭川市では
支所が地域のまちづくり推進
協議会の事務局を担い、関係
団体と一緒に地域づくりに積
極的にかかわっている。支所
と併設で包括支援センターや

支所の存廃を検討するのが当
たり前。いまず支所廃止の
検討をやめよ」と迫りました。



他の公共サービス機関もあつ
て、支所を含めた行政の地域
拠点として、地域住民と結び
ついて仕事をしている」と紹
介。こうした例を参考に釧路
市でも支所の機能の充実を図
るべきと質問しました。

ここでも市の答弁にはビツ
クリ。「市政執行のやり方は
違う。支所の機能の拡充は検
討していない」とバツサリ。
大楽毛の説明会では、「支
所の廃止を提案する前に支所
を残す方策も検討しないで、
いきなり廃止か」という厳し
い意見が出ましたが、市は全
く考えてこなかったということ

を告白したようなもの。市に
とって支所は単なる収納や各
種証明書の受付だということ
なのでしょいか。
村上議員は、津波が心配さ
れる大楽毛では、生活館、児
童館、老人福祉センターの複
合施設をつくり、一階に支所
を入れて、サービスの拡充を
はかるよう求めました。

村上議員は、これらの質問
のほかに

- ①説明会の参加者が少ないの
で昼の説明会も開催すること
- ②支所廃止対象地域の住民に、
アンケート調査を行うこと
- ③市民の意見と市政執行の方
針が真つ向から対立しているこ
とから、来年の市議選を市長
選とのダブル選挙にして、市
民に信を問うべき
などの質問もしました。



6月議会、村上議員は一般質問 30分の質問時間全部を使って

「廃止しても不便にならないシステムを」と言いつつ、いまだに検討していない。
駒場会館の説明会で、「高齢者などは支所が廃止されたら不便になる」との意見のやり取りを受けて、市民環境部長は、「ひとりひとりを不便にさせない新しいシステムをつくる必要がある」と答えました。

この発言に注目して、「不便にさせないシステムとはどんなものか、すでに検討しているのか」と質問。市は「具体的なものを想定して答えたいのではない。対応策を検討したい」と答弁。